

## 保育事例紹介～「科学する心」を育てる～

地域の専門家との関わり～イヌの誕生から～／学校法人あおい学園 あおい幼稚園（新潟県）

皆さんの園では、昆虫や小動物を飼育している時、子どもたちはどのような気づきや発見をしていますか？

今回の事例は、園で飼っているイヌの誕生から、子どもたちがイヌについて、感じたことを言葉や、絵で表現したり、専門家の話を聴いたりして、興味を深め、生き物の命を身近に感じながら、「科学する心」が育っていく過程をご紹介します。



### ● 子イヌの誕生／3・4・5歳児

#### ✦ 赤ちゃんが生まれました！

- 11月1日、園で飼っていたイヌのコロが、赤ちゃんを産んだ。産まれてきたのは3匹。みんなで3匹に名前をつけた。産まれてすぐに死んでしまったガンバくんの事は、後に多くの保護者から尋ねられる。子どもたちがショッキングな出来事として、家庭に伝えていたためだった。
- 12月、保育者の家で、ある程度大きくなるまで育てたイヌたちが、園に戻って来た。子どもたちは、母親イヌ（コロ）のおっぱいの大きさに驚いていた。
- 1月、子イヌのコナンとルパンは、ワクチン注射を終え、子どもたちも触れるようになる。
- コナンとルパンは、触れる「アイドル」的な存在になり、子どもたちはよく様子を見るようになった。そして、感じ取ったことを言葉にするようになった。

Aちゃん：「（コロの、しぼんで小さくなったおっぱいを見て）お母さんの友達もね、赤ちゃん産んだんだけど、おっぱい大きかったのに、まっすぐになっちゃったよ。なくなったんじゃないけど、イヌも人間と同じだね」

Bちゃん：「ルパンは爪が白いけど、コナンは黒いね」

Cちゃん「ルパンとコナンの毛は柔らかい、フワフワだけど、コロの毛はカサカサしてるね」



● 1月上旬

- 5歳児の保育室でコナンとルパンを紹介すると、「家にもイヌがいるよ」「どんなイヌ?何イヌ?」と図鑑や絵本を出したり、自分の知っているイヌについて発表したりする姿につながった。

Bちゃん：「なんで、イヌには種類が沢山あるんだろう」

Cちゃん：「イヌを調べる博士になろうよ」

など、イヌの名前、種類、歳、色、何が好きかなどの特徴を話し合ううちに、盛り上がり、さらにいろいろ調べたい気持ちになった。

- Dちゃんが「“いぬけんきゅうじょ”ってことにしない?」と言ったことをきっかけに、「いぬけんきゅうじょ」が発足、研究する内容をみんなで話しあった。
- コロたちを紹介するデータ作りとして、図鑑好きのDちゃんが“紹介図鑑”を作成する。



● 1月中旬

- Eちゃんが、自分の家の紹介図鑑を描いて園に持ってきた。
- 保育者はEちゃんの図鑑を保育室に飾る。
- すると、

Fちゃん：「うちにはハムスターがいるから、ハムスター書きたい!」

Gちゃん：「うちにはネコがいる」

Hちゃん：「うちには生き物がいないから、ぬいぐるみ書いてもいい?」

など、いろいろな考えが出る。



● 1月下旬

- ペットのいない子ども、怖い子ども、興味のない子ども、コロの散歩を経験していない子ども、どのように関わってよいか分からない様子の子どものためには、保育者がコロ、コナン、ルパンの紹介図鑑を作ることを持ち掛けてみた。
- その日以降、イヌたちの観察をもっとするようになり、触ったり散歩したりする中で、何かを発見したり、疑問をもったりすると書くことを楽しむようになった。また、調べることに関してのモチベーションが上がってきた。

● 1月下旬～保育参観日～

- 保護者から、家にいる生き物について話を聞く機会を作った。
- 子どもたちも、一言ずつ、自分たちで考えた言葉を使う。

子どもたち：「僕たちはイヌ研究所をしています」

Iちゃん：「イヌのことをたくさん調べています」

Jちゃん：「動物の紹介図鑑も集めています。こういうものです」

Iちゃん：「B4の紙に書いてください。B4の紙はこういうものです。紙がないならここにあります」

IとJちゃん：「イヌのことが分かるお仕事の人いたら、教えてください」

など、5歳児自ら、保護者とやりとりをする。

- 紹介図鑑は徐々に集まりだし、最終的に28枚になった。そして、紹介図鑑は、動物図鑑へと呼び名が変わっていった。



## ✦ 地域の専門家との関わり

● 1月31日

- 3歳児の保護者で昔トリマーをしていたAさんとトレーナーになる勉強をしていたBさんを、保育参観後に5歳児クラスへ招き、話を伺う。
- Aさんからは、改めてイヌの測り方を、Bさんからは、イヌと初めて会った時の関わり方を習った。  
「イヌと目を合わせて、手をグーにして鼻の前に出すと仲良くなれるよ」と教えてもらう。  
質問がたくさんあったので、質問文を渡し、家で答えを書いてきてもらうことにした。
- 答えはすぐに届き、紙に貼ってまとめ、子どもたちと答えの確認をした。Aさん、Bさんにお礼の手紙を書くことになった。イヌ研究所のマークもみんなで決めた。
- 5歳児は、それ以降分からないことが出てくると、登降園時にAさんBさんを見つけては、質問をした。
- その後も子どもたちは、Aさんに子イヌたちの爪切りを見せてもらった。そこでイヌも爪を切ること、イヌ用の特別な爪切りがあることを知る。また、足の指が前足は5本、後ろ足には4本ということも5歳児みんなで知ることができた。



## ✦ 保護者への発信

- イヌとの関わりは、ポートフォリオの他、各担任はクラスだよりや、園だより、ホームページなどに載せ、子どもたちの情報を保護者に伝えた。
- 1月31日、“ कोरो通信”として、 कोरोの出産秘話と子どもたちとの関わりを6枚綴りのレポートとして、保護者向けに発信した。
- 父母や祖父母も読んでくれ、「イヌも大変なんですね」「感動しました」「子どもの様子が分かりました」「 कोरो通信2を期待しています」などの感想をいただいた。

## ✦ 保育者の読み取り・大事にしたい姿や育てたいこと

- 産まれてすぐに死んでしまったガンバ君のことは、後に多くの保護者から尋ねられた。家庭での話題になったようだ。生きること、死ぬことをきちんと伝えたことで子どもたちに、優しい気持ち、慈愛の心が生まれる様子が見られた。
- 「比較対象がある」ということが、発見を見つけやすくしていると感じた。本や図鑑を調べたり、保護者や医者に聞く他に「分からないことはAさん、Bさんに聞くことができる」環境がより、子どもたちの「もっと知りたい」という意識を高めていった。
- 子どもたちは、 कोरोの様子に合わせて散歩に行かなくてはならないこと、リードを離さないこと、行ってはいけない所やイヌが苦手な子の傍らでは、リードを引いて止めさせるなど、 कोरोを思い、友達を思い、行動していくことで、深い学びとなった。
- イヌのことを知れば知るほど好きになっていく。好きになると、もっと関わりたくなり、やがて愛着をもつ。また、イヌとの関わり方を模索し、知識を得ることで、今まで気づかないことに気づいたり、人間の思い通りにはならないことに出合ったりなど、相手に対する関わりを学ぶ機会となった。